

6－1 対象地区の地域資源活用方針

新幹線飯山駅周辺地区は、土地区画整理事業による再開発が中心となるため、まちの表情や環境はほぼ刷新され、もともと本地区が有する歴史的成り立ちや土地の履歴が断絶した、個性の乏しいまちが形成されやすい。対象地区が古い時代から持つ歴史文化、環境の継承なくしては、魅力あるまちづくりを図っていくことはおぼつかない。

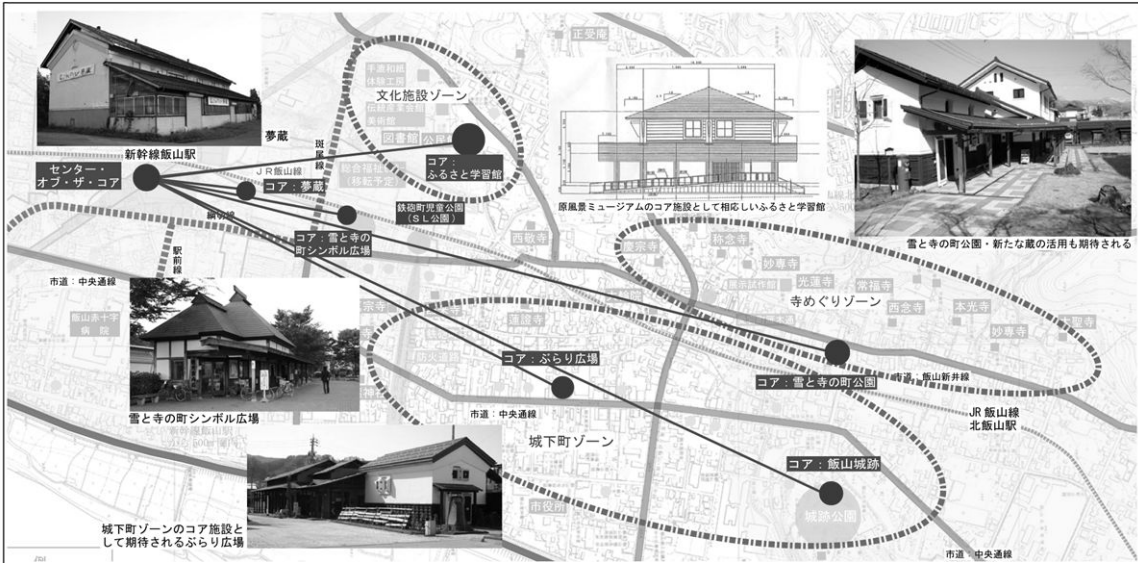
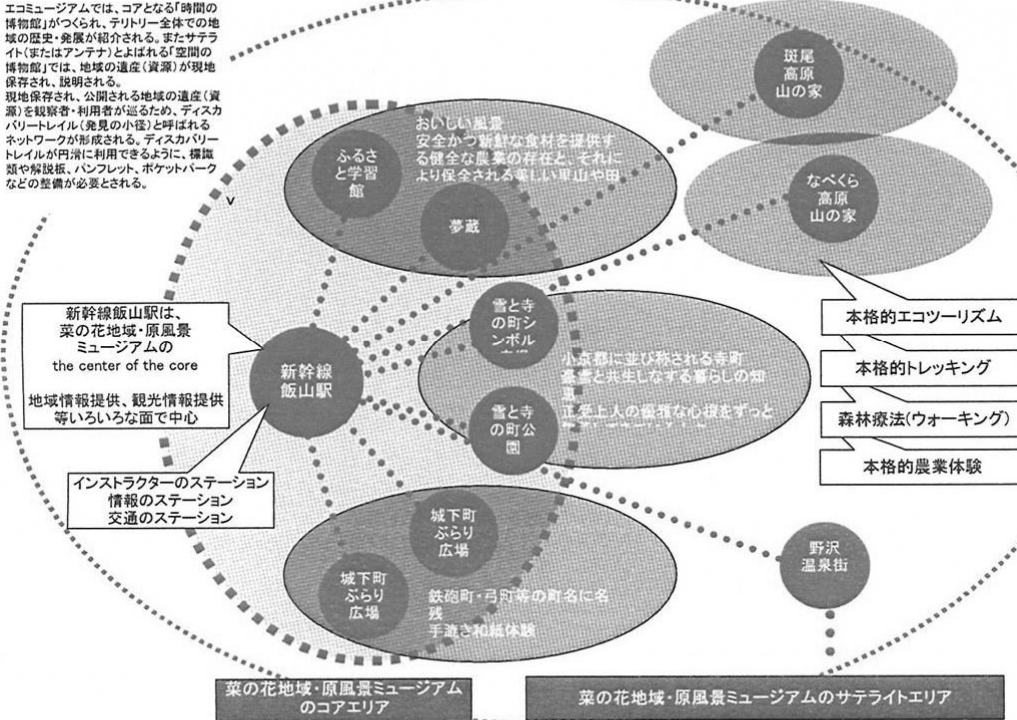
特に新幹線飯山駅は、周辺の山岳高原リゾート基地、温泉地等を有する信越高原エリアの観光のゲートウェイとして大きな期待がかけられている。「信州菜の花地域ウェルカムプラン策定調査」では、周辺の木島平村や野沢温泉村を含めたエリアを、フランスのエコミュージアムをモデルとした『風土博物館 [ふるさとの情景が色濃く残る原風景ミュージアム]』として展開していくことを標榜し、飯山市中心市街地を“コア”に、そして新しくできる飯山駅周辺地区を“センター・オブ・ザ・コア”と位置づけている。既存資源を活用し、前述したふるさとの情景が色濃く残る原風景ミュージアムのセンターに相応しい、地域の歴史や文化が薫る環境を形成していくことが望まれる。

こうした状況を前提に、地域資源活用方針を整理すると、次のようになる。

- ①在来線飯山駅は、長らく本地域の産業経済、暮らしの発展を支える交通の要衝であった。このように本地域の発展に寄与した鉄道遺産や産業遺産をできるだけ保全・活用し、新幹線という新しい文明の利器と対置することにより、時代的・文化的な奥行きをもった環境を形成する。
- ②街の履歴を読み取ることができる資源をできるだけ保全することにより、街の成り立ちと人々のおいたちの歴史を対照して追体験できるようにしていく。このためこれらの資源をできるだけ現地に近い場所で保存しながら、旅人や市民が地域性や歴史性を感じられるようにする。
- ③資源の活用にあたっては、旅人と地域住民が周辺の信越高原エリアを含めた本地域の魅力と共に確認し、“共歓”できるように、新しい感覚の“出会いと交流”機能を付加させていく。単なる静態保存・展示ではなく、できるだけ新しい機能展開を図りながら、有効活用する。

■図表 6.1 新幹線飯山駅周辺地区は、原風景ミュージアムのセンター・オブ・ザ・コア

菜の花地域・原風景ミュージアムにおける新幹線飯山駅の位置づけ



6-2 地域資源の現況と履歴

前述した地域資源活用方針等に照らして、本地区の歴史性・文化性の創出に資する地域資源を抽出すると次の4点となる。

- ① 旧農協倉庫（じょんのび夢蔵）
- ② 飯山駅（JR飯山線）
- ③ SL（蒸気機関車C56 129）
- ④ 既存樹（ヤナギ）

■図表 6.2 新幹線飯山駅周辺地区の主な地域資源の分布



そのそれぞれについて以下のような調査を実施、その保存・活用の可能性を検討した。

- ・歴史調査（資料、ヒヤリング等）
- ・活用調査（現在の利用形態等）
- ・物件調査（規模、構造、状態、図面、写真等）

対象物	旧農協倉庫（じょんのび夢蔵）		
所在地	飯山市大字飯山字舛ノ浦 749-5、749-7、757-3、775-3		
所有者	飯山市		
管理者 （活用者）	飯山市／じょんのび商店街事業協同組合		
歴史調査	経過	昭和10年 建築（農業会） 昭和23年 飯山町農協設立。飯山町の穀物の貯蔵庫・検査所として活用 昭和53年 下屋部分改修（壁など） 平成 年 貯蔵庫としての役目を終える。 平成10年12月 近隣4JAの合併にともない処分施設の対象となる。 平成12年 9月 北信州みゆき農協より飯山市が土蔵（建築物）を受納。土地は土地開発公社が買収。 平成13年 1月 じょんのび商店街（旧上町栄町商店街）事業協同組合に土蔵一部の使用許可 平成13年 8月 じょんのび縁日 夏祭り開催 平成14年 8月 じょんのび縁日 夏祭り開催 現在に至る	
	資料	町中の農協は商業者中心の信用事業が主体で農家は比較的少なかった。食糧難の頃は精米用の米がこの倉庫からちょくちょく盗まれた。農協から生産者に補填するためにやりくりをしたが間に合わず、農協の職員が自分の家から持ってきて穴埋めもした。農協が設立されると農業会時代の購買品等の不良在庫が倉庫2階に集められた。戦時中は物が少ないことから多少処分できたが、戦後良い品物が出回ると全く売れなくなってしまった。農協の合併に伴い財産処分の対象施設・土地となり飯山市ならび土地開発公社と協議を進めることとなる。土地については飯山市土地開発公社が駅周辺事業代替地として買収する事となる。土蔵については過去の歴史や思い出も多いことから運用には考慮されたいとの意向もあり農協より寄付採納願いが提出された。市では駅周辺整備に伴う活用の可能性もあることから、飯山市寄付採納審議委員会の議を経て飯山市の所有となる。同じ頃上町栄町事業協同組合より「地域行事・地域に根ざした文化、芸術活動に活躍する人達の作品展示、芸の発表の場」として土蔵の一部について使用申請が提出される。市では具体的な活用策の決定ならびに事業着手するまでの間（飯山市が返還請求するまでの間）使用を許可する事となる。商店街では、毎年恒例の夏祭りを始め地域活動に土蔵を使用することとなる。この蔵の愛称を「じょんのび夢蔵」と銘々する。（事務処理記録等より）	
	ヒヤリング	相手方：元農協職員で昭和22年に入所して以来この倉庫で米の検査と併せて管理してきた人 飯山町中の米を貯蔵していたが、戦後間もない食料不足の時は米泥棒に手をやいたことを思い出す。駅に近いが鉄道を使って出荷していたわけではない。	
活用調査		・ じょんのび商店街事業協同組合の事務室として一部使用 ・ じょんのび商店街の催し会場として建物半分を一部改装し使用（ホール、ステージ） ・ 倉庫として飯山市が一階半分活用	
		▲蔵内部をホールに改装 ▲小室等とピーコの座談会 ▲寄席	
物件調査		種類 倉庫 構造 本体：土蔵造亜鉛メッキ鋼板葺式階建 下屋：木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋建 床面積 壹階 397.48㎡、貳階 127.52㎡ 本体：264.99㎡（29.12m×9.10m） 下屋：132.49㎡（29.12m×4.55m） （各階平面図、立面図、矩形図作成済み）	
備考		じょんのびとは・・・ 新潟地方の方言で語源は「寿（じゅ）延（の）ぶ」と考えられている。またのんびりを意味するようである。	

対象物	飯山駅	
所在地	飯山市大字飯山 747-2	
所有者	東日本旅客鉄道株式会社	
管理者 (活用者)	東日本旅客鉄道株式会社	
歴史調査	経過	大正 6 年 8 月 飯山鉄道株式会社創立（寺田裕之、五島慶太の多大なる応援により） 大正 10 年 10 月 飯山駅開業（豊野～飯山間） ※飯山～西大滝間着手 昭和 19 年 6 月 飯山鉄道が国鉄に買収（陸軍の非常態勢により上越線と信越線の短絡線に位置づけ） 昭和 35 年 8 月 五島慶太公の記念碑が設置 昭和 57 年 10 月 貨物取り扱い廃止 平成 元年 12 月 駅本屋改修工事（一駅一名物運動事業） 平成 3 年 10 月 飯山駅開業 70 周年記念事業開催（五島慶太公の碑の由来銅板設置） 平成 16 年 11 月 在来線飯山駅を新幹線駅に移設統合することが正式決定。 現在に至る
	資料	千曲川に沿った谷街道と、越後への富倉街道の分岐点に当たる飯山町は、千曲川の通船によって北信濃への塩の供給地という役割を果たしており物資交流の重要な地点だった。 今の信越線の計画がたてられた時に新井から飯山に出る計画線もあったが、これに飯山の人々は反対した。飯山のみでなく、付近の村々からも反対の陳情書が鉄道庁に差し出された。当時は隆々と栄えていた飯山。鉄道に開通で物の流れが変わることなど考えてもみなかった。だが、信越線が開通した途端、物資の流通経路は変わってしまい、飯山の町は凋落の一途をたどった。 時勢の動きに勝てなかった人々はようやく目覚め、新潟県中魚沼郡の有志とはかり、千曲川の沿岸線の鉄道誘致運動を起こした。だが、それは叶わず私鉄でも明治 29 年株式の募集を始めたものの、あいにくの経済恐慌で集まらず、再度具体化したのは大正 5 年で、翌大正 6 年 8 月 30 日飯山鉄道株式会社創立、建設に着手することとなった。そのとき、飯山駅の設置位置について町の北部では愛宕の地への要望運動もあったが、結局現在の地に決まり豊野～飯山間が開通した。 以前は観光シーズンの夏・冬は賑わいをみせていたが、高速道路豊田飯山 IC の開通等により利用客は減少している。しかし最近では J R の企画等の支援もあり中高年層のローカル線の旅として新たに脚光を浴び始めた。 以前は駅舎内に観光案内所もあったが、現在は駅北側の「雪と寺の町シンボル広場」に移設された。
活用調査		- 寺のまち飯山の玄関口として雰囲気醸し出している。 - 飯山線の基幹駅として活用されている。 - 長野方面の通勤・通学客で朝夕は混みをみせる。（平均乗降客数 1400 人／日）
物件調査		駅本屋：木造平屋（奥行 12,740mm、横 27,300mm） 昭和 年建築 待合室、キオスク（売店） 駅事務室、駅長事務室、駅員詰所、 休憩室、交換室、電池室、機械室、 制御盤
備 考		- 一駅一名物運動事業の一環としてホームに鐘楼が設置されている。（写真左） - 飯山鉄道の認可の際に多大な力添えがあった五島慶太公の記念碑が駅前広場にあり（写真右）



対象物	S L（蒸気機関車 C 5 6 1 2 9）		
所在地	飯山市南町 24-3（都市公園 鉄砲町児童公園内）		
所有者	東日本旅客鉄道株式会社		
管理者 （活用者）	飯山市		
歴史調査	経過	昭和 1 3 年 2 月 日立製作所で誕生し会津若松機関区に就役。（2 月 21 日） 昭和 2 6 年 1 2 月 飯山機関区所属となり客貨輸送。 昭和 4 7 年 1 0 月 飯山線全線ディーゼル化に伴い機関車の役目を終える。 昭和 4 8 年 6 月 長野鉄道管理局から飯山市が無償で借り受ける。（使用賃借契約締結し公園内に静態保存） 飯山 S L 愛護会へ維持管理委託（～ H 3 頃まで） 昭和 6 0 年 4 月 形式プレート盗難被害を受けるが、無事京都府園部警察署より還付を受ける。 平成 3 年 4 月 栃木県真岡市から S L を走らせる目的で列車譲渡の依頼があるが断る。 平成 1 3 年 1 1 月 飯山市ならびに有志（国鉄 O B ら）による塗り替え作業実施 現在に至る	
	資料	・ 「C 5 6 1 2 9」（以下 1 2 9 号）はシゴロクと呼ばれ、1 2 9 番目に製造された国産機関車である。昭和 1 0 ～ 1 4 年に 1 6 4 両製造され、うち 9 6 両が太平洋戦争の軍事供出や南樺太鉄道として使用され、それ以外（6 8 両）は日本のローカル線専用として客貨輸送に活躍してきた。 ・ 1 2 9 号はテンダー式機関車であり、後方の視界確保の為にテンダー側面を斜めに大きく切り取ったスタイルが特徴で転車台がない駅でも折り返し運転ができるよう工夫されている。 ・ 展示に際しては、国鉄当局の厚意により立派に任務を果たした 1 2 9 号の勇姿を安住の地に永くとどめるものである。 ・ 現在、国内で静態保存されているのは 2 2 両で 1 2 9 号はその内の 1 両にあたり貴重な機関車である。唯一動態保存されているのは 1 6 0 号（J R 西日本）のみとなっている。 （説明看板・ホームページより）	
活用調査		・ 公園内に展示してあることから子供たちに親しまれている？ ・ 立ち入り禁止（ネット柵）で乗車はできない。	
物件調査		形式称号 C 5 6 車 種 1－C シリンダー 2 管直径 400×610 走行距離 1739931.9km 動 輪 3 輪径 1.4m 寸法 長さ 14.325m 缶使用圧 14kg/cm2 幅 2.936m 全伝熱面積 742cm2 高さ 3.900m 大格子面積 1.3m 重量（運転時） 65.53t シリンダー牽引力 8290km （空 時） 47.17t 最大出力 505 馬力 最高速度 75km/h テンダー重、石炭積載量 5t （水槽容量 10.0m3） 風雨等による損傷が激しい。 形式名プレートやメーター等の盗難・破損がある。	
備 考		飯山駅を出発する 129 号（昭和 4 6 年頃）	

対象物	既存樹（ヤナギ）	
所在地	飯山市大字飯山 773-3	
所有者	岡田千春（芸術家）	
管理者（活用者）	岡田千春	
歴史調査	経過	昭和22年 岡田家が東京から飯山へ移住（やなぎの木が岡田家にやってくる） 昭和32年 現在地に岡田家引っ越す（やなぎの木を植樹） 現在に至る （中部電力線に接触するため2年に1度中部電力により剪定されている。） （樹木医に診てもらったことがある。結果：良好）
	ヒヤリング	岡田千春・ふじ夫妻 ○市民のみなさんは駅周辺整備によりこの木がどうなるのか非常に関心を示している。活用の可否やご本人との交渉は今後の検討として、まずはこの木の歴史等について岡田千春夫妻に話を伺った。 ● 終戦を迎えた昭和22年ごろ、岡田家は東京から飯山へ移住してきた。当時は岡田薬局（本町商店街）のそばに住んでいた。この時この木を父親が誰かにもらってきたようだ。直径3～4cm程度で高さは2mもなく、根もついていなかったので挿し木にして育てていた。 ● 昭和32年12月に現在住むこの地に引っ越してきた。この時やなぎの木を植樹した。周辺は長野県住宅供給公社の分譲地として整備されていたが、以前は田んぼだったので水分が多いせいか木の成長は早かった。 ● このような経過からも、いわば岡田家が飯山に住み着いた記念樹ともいえる。 ● やなぎの木は比較的学校などに多く植えられるもので一般家庭では珍しいものだと思う。 ● 枝が垂れてくるので毎年背の丈ぐらいで剪定している。冬は葉が落ちるので落ち葉清掃は大変。特に隣近所に迷惑にならないよう清掃するのだが、「秋だからしょうがないね」としてくれる人もいる。 ● 夏は日陰で涼しい。他人が休ませてくれと行って来たこともある。 ● 以前樹木医に診てもらったこともある。結果は良好であった。その時、笑い話としてこの木を切ったら寿司屋のまな板にして売ろうかなんてことも話した。そうしたら樹木さんは残った木でつまようじでも作ろうかなんて話したこともあった。（それほど質の良い木であったということだろう・・・。） ● 冬になると木花[※]が咲く。その時は写真を撮りに来る人もいる。 ● 西側にポプリの木が植えてあったが台風の影響で倒れてしまった。やなぎについてはこれまで雨風の影響はない。 ● 木花の写真や昔撮った写真などあると思うので探してみる。（見つかり次第借用） やなぎの木や高社山がはいった絵も描いたことはある。
活用調査	夏は日陰にもなり、通行人の休憩場所になっている。 飯山線でふるさとへ帰ってきた者のシンボル（目印）ともなっているようだ。 木花（冬）が咲くときは写真を取りにくる人々がいる。 地域のシンボルになっているようだ。	
物件調査	樹名：しだれやなぎ（枝垂柳） <i>Salix babylonica</i> ヤナギ科ヤナギ属 落葉高木 樹齢：40年前後 幹周：2.6m(地上1.5m地点) 樹高：最高値14.9m 雌雄：不明 特徴：中国が原産で、我が国へは奈良時代に渡来したという。 今では広く各地の公園や水辺に植栽されており、高さは10～25mくらいまで育ち雌雄異株である。 枝先が垂れ下がり、3～5月に新芽の薄グリーン色と同じ尾状の花序を咲かせる。我が国では雌株が希少である。（計測図作成済み）	
備考	※ 木花とは 寒い冬の朝水蒸気が樹について凍り、まるで白い花が咲いたように見える。朝日に照らされ光り輝く風景は幻想的であり雪国ならではの自然現象。	



6-3 地域資源の活用イメージ

それぞれの地域資源の保存・活用の基本的考え方、具体的活用用途、課題等を整理して、図表 6.3 に示す。樹木を除く建築物等の保存・活用に当たっては、比較的大がかりな修復や移築・曳家を必要とし、費用対効果について十分検討が必要となってくる。

次頁以降では、旧農協倉庫（じょんのび夢蔵）と S L の活用イメージについて、具体的に検討する。

■図表 6.3 地域資源の保存・活用の方向と具体的な活用用途

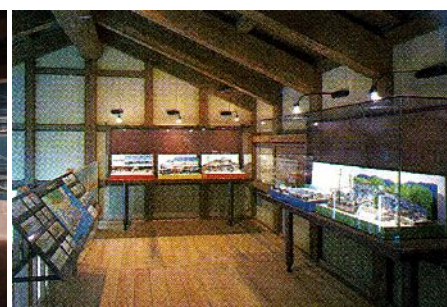
地域資源	保存・活用の方向	具体的な活用用途（案）	課題
旧農協倉庫 （じょんのび夢蔵）	米蔵として使われた歴史を考えると、地産地消を基本とする周辺地域の食の魅力、豊かな食文化を象徴する地域資源である。内部空間の活用用途も広い。現在上町商店街（じょんのび商店街）がイベント会場等として活用するなど、市民の愛着も強い施設であり、 <u>保存・活用の方向</u> で検討する。	新幹線飯山駅と一体的に整備（合築）を予定する「旅の交流拠点施設」のアネックスと位置づけ、 ●観光情報提供機能 ●住民・旅人の交流機能 ・食や特産品の魅力提供 ・イベント提供等として活用する。	土地区画整理事業区域の中心部に位置し、民地の換地が想定されるため、場合によっては本格的な曳屋を行う必要がある。また修復・修繕工事も必要
飯山駅 （J R 飯山線）	飯山駅の玄関口として長らく市民に利用されていた駅舎本体については、できれば保存が望ましいが、その場所や方法等については今後慎重な検討が必要となる。 鐘楼、石碑（五島慶太公記念碑）等重要パーツについては、例えば新たにできる駅前広場、公園等の中に配置する等、適宜位置を移動して保存する。	鉄道の歴史や地域に功績のあった人物を顕彰する資源として、対象地区に新たに整備される広場や公園、その他オープンスペースの中に配置する。	都市計画道路敷等に位置するため、いずれも現地保存はできない。 駅舎本体については、部位や部材を適宜保存していく方法も考えられる。
S L（蒸気機関車 C 5 6 1 2 9）	現在鉄砲町児童公園内に配置されているが、活用頻度が低い等、効果があがっていない。雪と寺の町シンボル広場と鉄砲町児童公園との一体的整備や、アクセス環境の整備等により、本地域資源のもつ魅力を有効活用していく。なお場合によっては新たに整備される駅前広場、駅西広場等への保存位置の変更も考えられる。	近代遺産施設として、展示活用していく。このため配置場所周辺の周辺環境の整備や解説サイン等のリニューアル、イベント活用等に工夫する。	保存・展示位置変更に当たっては、本格的な本格的な曳屋を行う必要がある。長期間雨ざらしされており、修復工事も必要
既存樹（ヤナギ）	対象地区において、長い風雪を耐えて従前から残る大木であり、歴史を物語る資源としてできるだけ保存する。できれば現地保存が望ましい。	新たに整備される駅前広場等のシンボルツリー等として活用していく。	樹木の養生が必要 現地保存が最適であるが、場合によっては移植も検討する。

（１）旧農協倉庫（じょんのび夢蔵）

地元上町商店街（じょんのび商店街）により寄席や座談会等の催し会場として活用されており、このような地域住民が主体となった表現の場、多目的な活動の場としての取り組みをさらに広げていくことが基本となる。なお「旅の交流拠点施設」（付属資料参照）のアネックスとして、飲食・物販施設として活用していくことも考えられる。

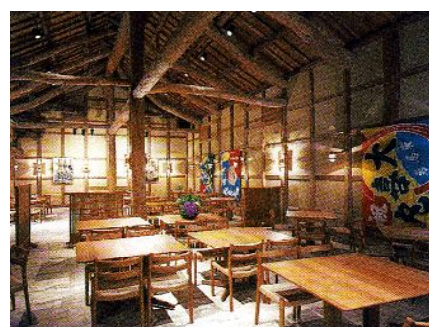


飯山市の自然や歴史・文化に関する講演や体験学習、各種コンサート・演劇・映画鑑賞等のイベント等の場として、屋内・屋外空間を活用する。



季節毎の節句の祝い物の展示、芸術作品や地域文化の展示発表の場として活用

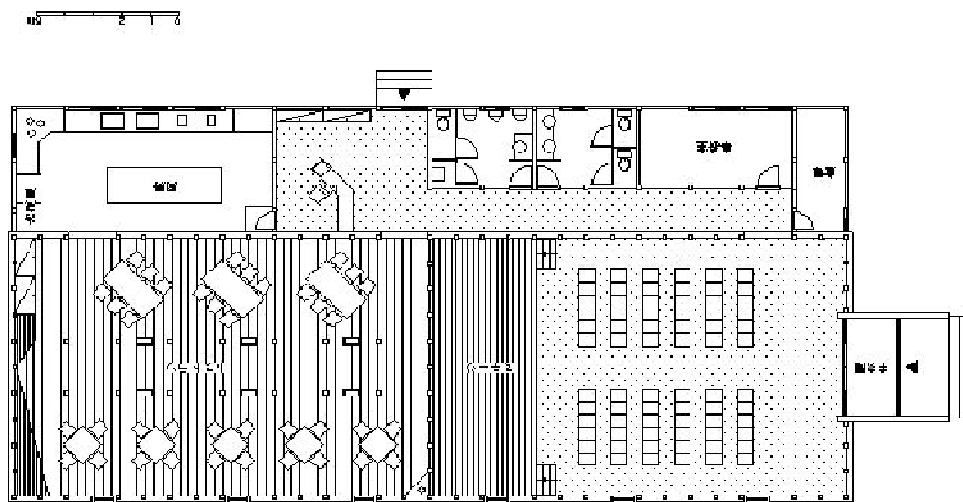
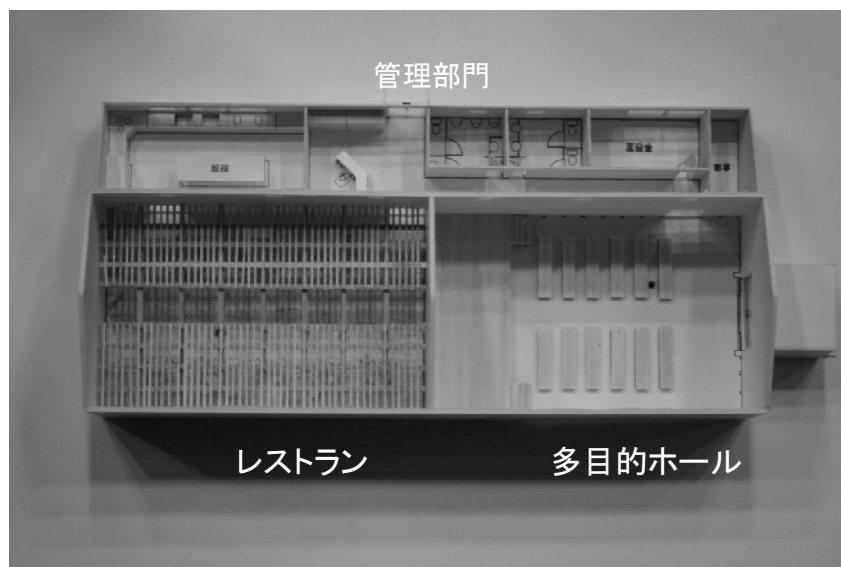
地域住民と旅人が共に集い、交流する
コミュニティスペースとして活用



蔵の開放的な雰囲気を活かして、飲食・物販の場として活用する。

なお「信州菜の花地域ウェルカムプラン策定調査」においては、以下のような修復・活用案も提示されている。

■図表 6.4 例えばレストランや多目的ホール等として活用する夢蔵の再整備イメージ



資料) 信州菜の花地域ウェルカムプラン策定調査報告書、中部産業活性化センター、2006. 3

(2) S L (蒸気機関車 C 5 6 1 2 9)

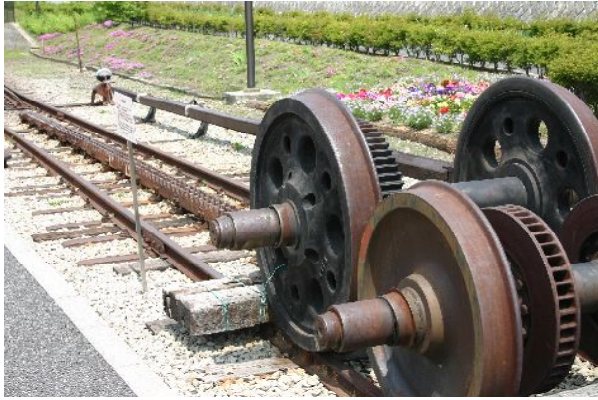
現在維持管理が行き届いておらず、鉄砲町児童公園の片隅に半ば放置されているような S L については、以下のような方途によりその有効利用を図る。

- ・ 周辺の園地部分を含めて、定期的に維持管理の手を加えて、現役当時の迫力ある姿をそのまま展示保存する。
- ・ 駅舎の一部を移築するなどにより、両者を一体的に展示保存して、往時の雰囲気やその価値がわかるようにする。
- ・ 線路や枕木等を広場の舗装材料の一部に用いる等、歴史的環境に相応しい景観デザインの園地や広場としていく。
- ・ サイン類等によって、わかりやすく、楽しげな展示を行う。
- ・ 周辺を多目的なイベント広場として有効活用する。



定期的に維持管理を行い、現役当時の迫力ある姿をそのまま展示保存するとともに、周辺を居心地の良い、大人びた空間として整備していくことが基本となる（左上：群馬県松井田鉄道文化村、左下：東京新橋駅前広場）

またサイン類の整備によって、S L の性能や役割、履歴等をわかりやすく解説するとともに、楽しげな雰囲気を醸し出す（右：群馬県松井田鉄道文化村）。



線路や車輪等を併せて展示し、鉄道に因んだ歴史的環境の演出を図る（左：群馬県松井田鉄道文化村、右：東京新橋駅前広場）。



線路や枕木の舗装材としての活用
（群馬県松井田鉄道文化村）



近代化遺産・産業観光資源として活用（イギリスにおける保存展示例）